

新聞販売店と折込広告会社の間で

取引基本契約を結ぶために

日販協近畿顧問弁護士・小寺陽平氏



小寺陽平弁護士(2025年5月20日開催の第2回通常総会で撮影)

販売店にとって折込広告の配布にかかる手数料収入は売り上げ全体の約2割を占める非常に重要な取引である。近畿地方での最低賃金の上昇率は、10年前と比較すると平均35%も上昇しているが、折込手数料は一部地域を除き据え置かれたままとなっている。確かに、日本全体の折込広告業費自体がピーク時と比較すると64%も減少しており、大変厳しい環境にあることは理解できるが、さりとて折込発注の減少に加えて労務費の上昇の全てを販売店が吸収できるはずがない。現状の戸別配達網を社会的なインフラと捉えこれを維持するため、関係各所の協力のもと適正な手数料の設定が急務である。

さて、この交渉に先立ち、販売店と折込広告会社間の契約(以下「本契約」)に関する契約書を拝見したいと問いかけたが、契約書はもちろん発注書・受注書の取り交わしもないという実態を知って正直驚いている。請負関連の業界などでは、過去には発注書・受注書の取り交わしのみで契約書のないケースも多く見受けられたが、近年は取引基本契約書を締結した上で、発注書・受注書を個別契約書として位置付けることが主流となっている。今般、日販協近畿から本契約に関する取引基本契約書のモデル案作成のご依頼を受けたため、契約書を検討してもらおう前提として、会員の方々に知っておいてもらった方がよいことを導入として説明したい。

本契約は契約書を作成することが法的な義務と

なっているわけではないが、合意内容を明確化し、後日の紛争予防、条件交渉の土俵とすべく契約書を締結する意義は大きい。現在、折込広告連絡会議などで定期的に要望しているような事項についても、本来は本契約に定めることによりその当事者間で解決が図られる点も多くあると思われる。また、労務費転嫁交渉指針を踏まえ、「価格交渉及び協議」に関する条項を追加することも有用であろう。

本契約は、折込広告会社を発注者、新聞販売店を受注者とする業務委託契約に位置づけられる。業務内容を特定する要素である配達地域・部数配達方法は、各新聞販売店の新聞のそれと一致していること、配達地域と広告サイズによって単価が固定化されていたという特殊な取引慣行により、発注書・受注書がなくとも合意内容は概ね明確であり、大きな紛争には至らなかったであろう。しかし、かかる取引慣行により、本来あるべき条件交渉の場が長きに渡って行われないという弊害を生み出している。昨年の寄稿で、労務転嫁交渉指針を踏まえ新聞本側からの自主的かつ積極的な適正な価格交渉はもとより、新聞販売店側から

も積極的な価格交渉の働きかけを述べたところであるが、これは本契約関係においても同様である。この点に關して、一般社団法人日本新聞折込広告業協会の小山田理事長の令和7年11月5日の新聞情報にて「折込料金は販売店が決めるものではない」と明言されており、対折込広告会社との関係でも引き続き積極的な価格交渉の働きかけの材料になるのではないかと考える。

本契約の多くは長年の取引慣行の上に築かれた信頼関係をもとに大過なく来られたと思うが、一部の折込広告会社は事前に合意した広告の納品時間を守らず、新聞販売店の従業員が配達まで時間的余裕がない中で無理をおして広告を折り込んでいるという実態があることも伺った。折込広告会社側も広告主ないし広告代理店からの要望(無理難題)にこたえざるを得ないという事情があると思われるが、そのしわ寄せを新聞販売店側が甘受すべき言われない。例えば、折込広告会社が納品時間を過ぎて広告を納品したことにより、新聞販売店は配達に間に合わないため折り込みしなかった広告について、折込広告会社から当該広告にかかる対価の支払いを願っている。

2026年日販協近畿 各理事の年頭挨拶

明石西神戸淡路支部長

安永和則理事

(読売・二見)



新年明けましておめでとうございます。

2025年は前任からの途中引継ぎでわからないことだらけの日々でしたが色々サポートしていただき何とか年を越せました。

本年は少しずつでもこの活動の意義を理解し明石・西神戸・淡路支部に落とし込んでいけるよう努めてまいります。本年もよろしく願いいたします。

北兵庫支部長

藤原成靖理事

(朝日・成松)



会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。

新年を迎えても、我々の労働環境はますます厳しくなっております。

少しでも、今の労働条件を改善して今年も商売が続けられることを祈念いたします。

滋賀県支部長

濱本博樹理事

(朝日・堅田)



新聞配達では地域の治安を守る見守隊、人々の心を豊かにする新聞を一人でも多くの人に届ける！全てがウマくい、2026年を皆でそんな1年に！



奈良三重支部長

紙谷昌法理事

(産経・真菅)



新年明けましておめでとうございます。

この業界における問題点は、年々増加の一途をたどっておりますが、何か一つでも改善策を日販協から発信できればと思っております。

和歌山支部長

伊藤泰宏理事

(読売・和歌山南部)



新年あけましておめでとうございます。

厳しい環境が続く中、日々業務に尽力されている皆様に心から敬意を表します。本年も新たな挑戦を重ねながら、より良い環境作りを目指したいと思っております。

皆様にとって実りの多い一年となることを祈念いたします。